

ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド 2019に参加しました
(公社)神奈川県理学療法士会 災害対策委員会

2019年7月26日(金)～27(土)の2日間にわたって「ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド(通称:ヨッテク) YOTEC2019」が、社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団主催のもとパシフィコ横浜展示ホールDにて開催されました。

今年の展示テーマは「～探しに行こう!暮らしに生きるリハビリテーション～」、「イキイキとした暮らしを、ともに」と題して、TOKYO2020に向けてパラスポーツのチャレンジブースも充実し、「こどもフェスタ」では、こどもの福祉機器と遊びに関するコンテンツの紹介、また「介護福祉用具博」では、介護に関するハンズオンセミナーも開催されました。

公益事業推進部とのコラボレーションブース「災害時に使える福祉用具の紹介」も3回目の展示となりました。公益事業推進部では、神奈川県理学療法士会の取り組みや理学療法(士)を多くの方に知ってもらうことを目的に、理学療法(士)の紹介、「活動」や「社会参加」、「復職」に関連する理学療法ハンドブックなどの配布を行いました。災害対策委員会では、「災害時のリハビリテーション支援～理学療法士の役割～」の配布、災害時用トイレ「ラップポン」と、介護保険も使用できる福祉版「ラップポン・エール」、ダンボールベッドを展示して、ラップポンの操作、ベッドに寝る体験もしていただきました。また災害時に限らず、通常使用もできる褥瘡(じょくそう)予防用のエアマット担架を使用した搬送時のデモンストレーション、子ども向けの室内における飛散物から頭部を守る簡易ヘルメットとそのヘルメットが内蔵されたライフジャケットの装着体験など、昨年よりもバージョンアップしたブースを展示しました。

車椅子を日常使用されている方や支援者から「豪雨災害や土砂災害が起きた際に、災害要配慮者や避難行動要支援者への支援はどうすればよいのか?」、「当事者やその家族は、ふだんからどのような備蓄や準備をしておけばよいのか?」、また「どのような流れで避難所に災害用トイレやダンボールベッドが届くのか教えてほしい」といった具体的な質問が多く聞かれ、今年も各地で豪雨災害が起きていることや昨年の平成30年7月豪雨災害がまだ記憶に新しいこともあり、地震災害に限らない災害対策への関心が例年以上に高まっていることが質問からも感じられました。



災害対策委員会では「災害時に必要な備えや避難時に活用できる福祉用具」をコンセプトにした展示や、災害時における理学療法士の活動の普及啓発を今後も行っていきたいと思います。より多くの皆様のご参加をお待ちしております。